

環境エネルギー科学専修

基本理念

近年、産業技術の急速な発展により物質的豊かさや利便性が向上したが、その反面、さまざまな環境・エネルギー問題が顕在化してきた。このような中、新たなエネルギーの模索や高効率なエネルギー変換システムの実現、環境に調和した高機能かつ安全で安心な材料、地球環境の評価や維持・改善などに資する、既存の学術分野を横断する新しい科学が必要とされている。

本専修では、このような学術分野を担う若い科学者の育成を目標として、環境にやさしい機能性材料開発のための基礎科学、エネルギー開発と利用技術に関わる基礎科学、エネルギー・物質循環とプロセスシステムの研究開発、大気環境分析、環境対策技術の研究開発など、環境・エネルギー問題の解決を牽引する学術を教育・研究の対象とする。

現在社会では異分野を融合し統合的な研究開発を担う学術が求められている。本専修は幅広い領域を対象とした教育・研究活動を通して、国内外を問わず常に地球環境を意識できる次世代を先導する若い人材の育成を目指す。

環境エネルギー科学専修

学問分野

本専修では上記の教育・研究目的を実現するため、環境エネルギーに関連した幅広い分野にまたがる授業科目を設置し、狭い分野に縛られないように、主専門教育分野での人材育成を行う。環境エネルギー科学専修で学ぶ学生の出身は3学科以上の多岐におよび、各々違う学科において基礎学問を修得してきている。本専修に設置する主専門科目群においては、各分野の基礎学問の理解を強制するよりも、異なるバックグラウンドをもちつつ環境・エネルギーに関心がある人材同士が共に学ぶ機会をより積極的に提供する。学部・学科教育を基礎として、本専修では環境エネルギー科学の学術分野を切り拓いて行ける人材を育成する。

環境エネルギー科学分野は国内外の産業界と関係が非常に深い。各教員がそれぞれ社会と連携した教育・研究活動を行い、人材の輩出および成果の実用化を図る。産学連携活動のなかでのOn The Research Trainingにより、多様なキャリアパス開拓、国際学会発表、海外留学の奨励により教育・研究活動をより活性化させ、博士課程への進学や充実した教育を促す。